

甲斐市立敷島北小学校 自己評価書

令和5年1月23日（月）作成

校長 立澤 正二

記述者 職名 教頭 花形 一満

学校教育目標 「ともに学び ともに生きる 心豊かな子どもの育成」

- 知育 ・よく学び よく考える子ども（かしこさ）
- 徳育 ・思いやりのある子ども（やさしさ）
- 体育 ・健康でたくましい子ども（げんきさ）

学校経営方針

基本：教師個々の資質・能力の向上と連帯と信頼による組織力の発揮

- 1 全職員が常に学校目標を意識するとともに、めざす「子ども像」「学校像」「教師像」を念頭に置き、その具現化に向けた教育実践に取り組む。
- 2 明確なビジョンを持ち、目標に向かって確実な取り組みを展開する。
- 3 P D C A サイクルを生かし、課題を明らかにして大胆な工夫や改善をしながら、より質の高い教育活動を構築する。
- 4 意欲的に研修・研究に取り組み、専門職としての資質能力の向上に努める。
- 5 特色ある学校づくり、信頼される学校づくりの実践に努める。

1 全体評価

- 職員の自己評価、児童及び保護者へのアンケートの概要は概ね次のようにまとめることができる。
- ・本年度の学校経営方針に基づき、教育目標の実現に向けて具体的な取り組みについて提案し、一人一人の教職員がそれぞれの職務を遂行してきたことにより本校の総合評価は概ね良好な水準にあると考えられる。
 - ・それぞれの学年経営方針に基づいた適切な学年教育目標が設定され、その実現に向けて適切な学年・学級経営が行われていると考えられる。
 - ・学習指導については、全体的に肯定的な評価が多く、児童の様子を把握しながら基礎・基本の定着を図る授業を行っている様子がうかがえる。また、児童の学びの意欲を喚起する授業をめざすと共に、本年度の校内研究のテーマでもあるICTを効果的に活用した授業づくりが進んでいる。
 - ・生徒指導については、全体的に肯定的な評価になっている。これからも、児童一人一人に目を向けながら児童理解に努め、家庭とも連携を図り、問題行動の早期発見・早期対応を心がけて日々児童の指導にあたっていきたい。キャリア教育については、肯定的な評価ではあるが、「とてもそう思う」の割合が他の項目と比べると低い。キャリア教育の意義や目的をしっかりと教員間で共通理解を図り、児童の社会的・職業的自立に向けて、能力や態度を育てる教科指導や生活指導を行っていくことが必要である。
 - ・本校のPTA活動や地域との連携について肯定的な評価が多く、学校側からも情報を発信し、保護者も協力的であるという良好な関係ができていているといえる。Withコロナの考えに立ち、感染対策を講じながら、地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を活かす指導も昨年度より増えた。さらに内容を検討したり教材開発をしたりしながら地域の資源を活用することを日頃から心がけていきたい。保護者からの要望等の情報収集については、これからも積極的に行うよう心がけていきたい。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）	
I 学校教育目標に関して・学校経営について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・校長の経営方針の下、教職員が共通意識をもって学校教育目標の達成に向け教育活動を行っていることがわかる。 ・ほとんどの学年が単級であるため、ひとりの教師が複数の校務分掌を受け持つ状況であるが、それぞれの分掌を計画的に実施し、全体的には意識を高くもって取り組んだ様子が表れている。 ・学習活動や学校行事等の教育課程を進めるにあたり、P D C Aサイクルを意識して教育活動を行っていることがわかる。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも児童の指導に担任だけが関わるのではなく、学校職員全員、また、S C ・S S W等の外部機関とも連携をとり、「チーム敷島北」として、共通理解のもと児童の指導にあたり、学校教育目標の実現を目指していく。
II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価では、全体的に肯定的な評価が多く、教職員一人一人が主体的に学校運営に参画していることがわかる。 ・「危機管理マニュアルを理解している」の項目は、Aとてもそう思う 38.1%・Bそう思う 61.9%と肯定的な評価であるが、他の項目と比べるとA評価が低い。 ・学級担任と非常勤講師・市支援員・学力向上スタッフとが協働体制で児童の実態に応じた個の指導を丁寧に行っている。 ・保護者アンケートの「児童にとって学校は楽しいところだ。」「学校だより、ホームページなどから教育活動の様子を知ることができる。」「学校は熱心に授業に取り組んでいる。」「相談できる先生がいる。」の項目等で肯定的な評価がほとんどであった。学校と家庭が連携してより良い学校運営を行っていることがわかる。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルの理解に関しては、避難訓練や防犯訓練などを危機管理マニュアルに則した実効的な訓練を行い、その都度の反省から改善を図り、教職員の危機管理意識の醸成に努める。 ・これからも全教職員の共通理解のもと児童のより良い成長を目指し教育活動を進める中で学校の様子をこまめに知らせたり、学校開放を行ったりしながら家庭・地域に信頼される学校を目指していく。
III 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が意識を高くもって、児童の学びの意欲を喚起する授業づくりや各教科の基礎基本の定着のための取り組みに積極的に取り組んでいることがうかがえる。 ・自己評価において、「指導と評価の一体化に努めた授業を行っている。」の項目で評価が昨年度より低くなっている。 ・自己評価において、「I C Tを効果的に活用した授業を行っている。」の項目で、昨年度より肯定的な評価が増え、改善が見られる。 ・児童アンケートの「授業は楽しいですか。」「先生はよく勉強を教えてくださいますか。」の学習に関するほとんどの項目、また、保護者アンケートの「学校は熱心に授業に取り組んでいますか。」の項目で肯定的な評価であった。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から指導と評価が一体化した授業を全校的に進めるために、指導と評価の一体化の意義や「児童が意欲的に授業に取り組むようになる。」「教師の授業改善に役立つ。」というメリットを全教職員で共有し、指導と評価の一体化を意識した授業づくりを進める。 ・2年間、校内研究で「I C T等を効果的に活用した指導法の工夫」に取り組んできた。これからもさらに研究を進め、タブレットを活用した児童の個別最適な学び、協働的な学びを進めていきたい。

IV 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価では、生徒指導全般について、肯定的な回答が多く、教職員は意欲的に取り組んでいる。 「キャリア教育を児童の実態に応じて行っている。」の項目は、A とてもそう思う 46.7%・B そう思う 53.3%と肯定的な評価であるが、他の項目と比べると A 評価が低い。 児童アンケートでは、生徒指導の項目として、「学校のきまりや約束事を守っているか。」「清掃活動をしっかり取り組んでいるか。」の項目で肯定的な評価が90%以上であった。一方「誰とでもあいさつしているか」の項目では、肯定的な評価が、80%台にとどまった。 児童アンケートの「困った事があったら相談できる先生がいますか」の項目では、肯定的な評価が、昨年度の84.2%から今年度78.5%と下がっている。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> 「規範意識を育む指導」「問題行動の早期発見・早期対応」については、引き続き職員間の共通理解を図りながら、全校体制で粘り強く取り組んでいく。 家庭や関係機関との連携がより図られるよう、情報の共有化を意識しながら生徒指導部会や特別支援教育校内委員会等で組織的に対応していく。 キャリア教育については、これからも本校のキャリア教育全体計画を意識する中で、学年ごとの指導計画に応じ、実践的・体験的活動を重視しながらキャリアパスポートも有効に活用し、児童の社会的・職業的自立に向けて必要な能力や資質を育てていきたい。 「あいさつ」については、小中連携のあいさつ運動や今年度、新たな取り組みとして行った地域の方々とまじえてのあいさつ運動をこれからも継続していき、児童会を中心に児童が主体的に取り組める活動をさらに意識して進めていきたい。 今まで以上に児童のよき相談者や心のよりどころとなるために、日頃から児童の心情に寄り添った共感的受容の姿勢で児童に接し、信頼関係を築いていく。
V 地域との連携について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価では地域との連携について、全ての項目で肯定的な評価が90%以上となり、日頃から教職員が地域との連携を意識して職務にあたっていることがわかる。 本校はPTAのOBが中心となるおやじの会や母親の会の学校への協力もあり、地域連携がより良く推進されていると捉えている。 保護者アンケートによると、「学校（学年・学級）だより、ホームページなどから教育活動の様子を知ることができる。」「授業参観や学校開放日などは、子どもの様子を知る機会になっている。」の項目で肯定的な評価が90%と高い評価になっている。 一方「学校は、保護者・地域住民からの声に耳を傾けている」では、肯定的な評価が、77.6%と比較的低い評価となっている。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりや学年だより、授業参観や学校行事、ホームページを使って、これまでどおり学校の教育活動を地域や保護者に知らせていく。 PTA運営委員会や学年PTA部会、家庭訪問、個別懇談等あらゆる機会を利用し、情報を共有するとともに、保護者や地域の意見を積極的に取り入れていく。 学校評価をもとに学校評議委員会、関係者評価委員会などで出された意見を学校運営の改善に役立てていく。

VI 学校の特色に関して	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価の「学校や児童会の行事に児童が進んで取り組むよう指導している。」「業前タイムを授業として有効活用している。」の項目について高い肯定的な評価となった。 ・保護者アンケートの「学校は学校行事や児童会行事に力を入れて取り組んでいると思う。」の項目について、肯定的な評価が、85.6%と好評価を示している。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会活動には、全校児童の親和性を高める「たてわり遊び」や「北小まつり」などの取り組みや子ども達同士が様々な事柄の感謝を伝え合い、児童の自己有用感や自己肯定感を向上させる「感謝の実」の取り組みがある。今後も敷島北小学校の特色として継続して行きたい。 ・今年度もコロナ禍で学校行事や児童会行事、業前の活動が制限される中、できるだけ実施できるように感染対策をとりながら、工夫して学校行事や教育活動を行ってきたことが評価されたと考えている。これからも児童の豊かな人間性の発達を目指し、学校行事や児童会行事等も含めた学校活動を充実したものにしていきたい。
VII 創甲斐教育について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価の結果として、「積極的な読書活動の取り組み」「児童の実態に即した道徳の指導」「児童の体力向上や健康指導」全ての項目で、高い評価となった。教職員が日頃から創甲斐教育に積極的に取り組んでいることがわかる。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育については、これからも児童の実態の理解に努め、教職員で目指す児童像を共有しながら、道徳の授業を中心に学校教育全体を通して児童の道徳性の育成に取り組んでいく。 ・体力向上への取り組みは、北小タイムでのたてわり遊びやドッジラリー等の活動やいきいき人材活用事業での専門性を持った講師による体育の授業などの取り組みをこれからも継続していき、さらなる児童の体力向上を目指していきたい。
3 まとめ	
<p>〈成 果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営方針、学校教育目標を全職員が共通理解のもと、その目標の具現化のための適切な学校運営ができています。 ・ICT等を効果的に活用した授業改善が推進している。 ・学校・家庭・地域が良好な関係を築き、連携協力のもと児童の生きる力、知・徳・体の一体的な育成をめざし、学校教育活動が推進されている。 ・児童は、教育活動全般にわたり楽しく学校生活を過ごし、まじめに取り組む児童が育っている。 <p>〈課 題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「チーム学校」としての学校職員や外部機関との連携協働体制の構築 ・危機管理マニュアルの周知徹底と防災対策の推進 ・児童の実態に応じたキャリア教育の推進 ・児童一人一人に目を向けたきめ細かな児童生徒理解と指導 ・学校情報の積極的な公開と家庭・地域のニーズの把握に努めた学校・家庭・地域との連携協働の推進 	